

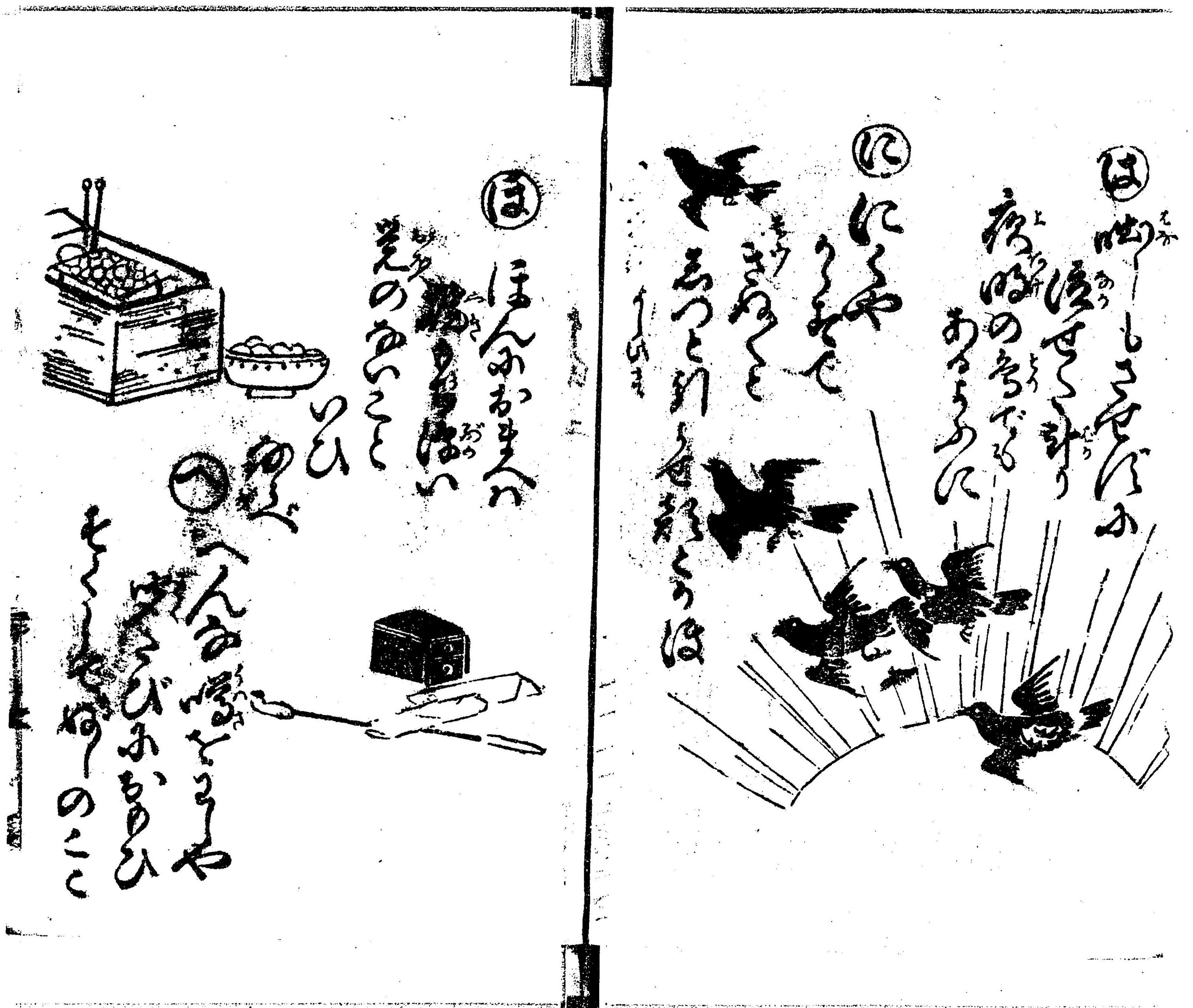


特44

267

は
の
こ
う

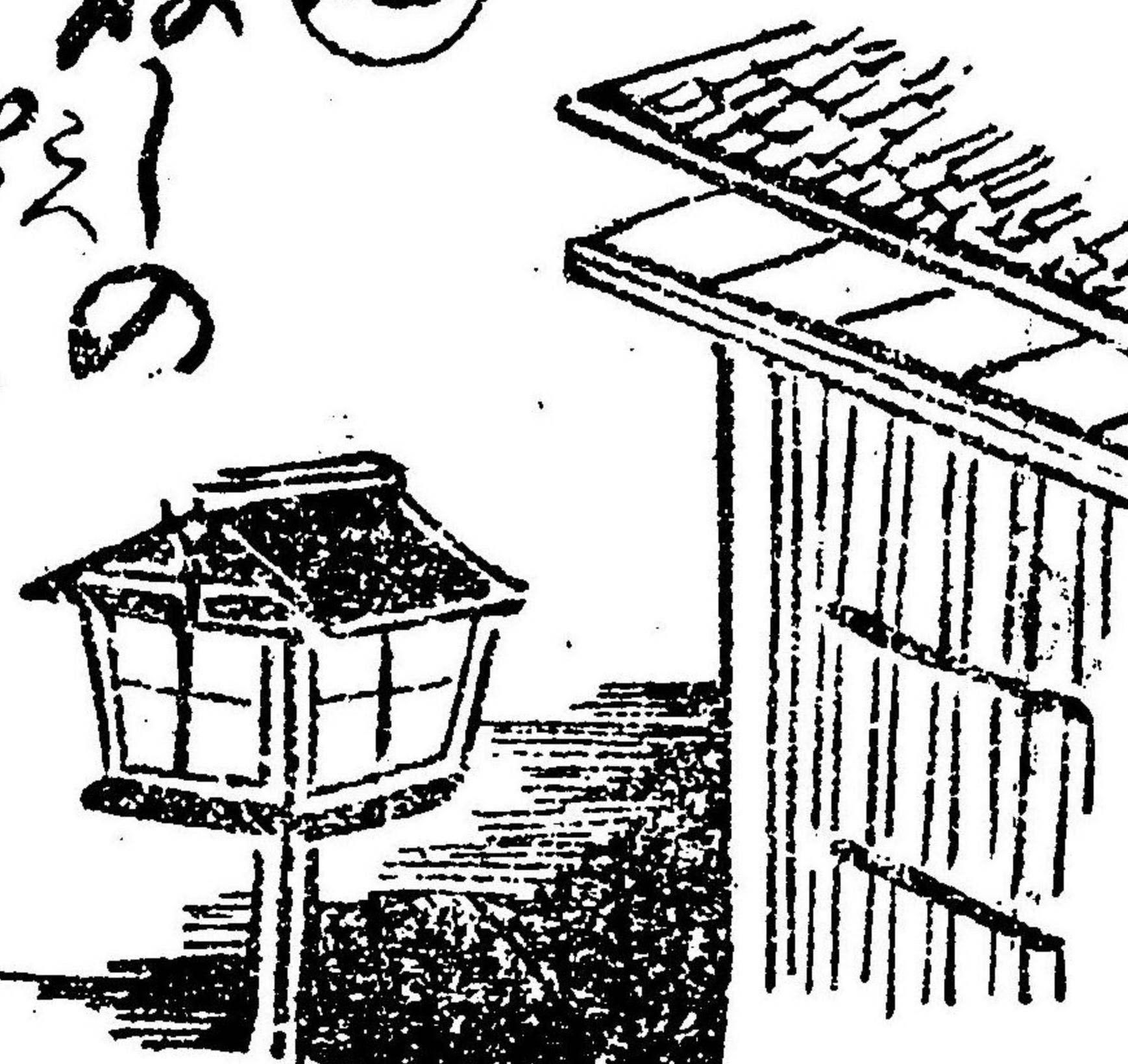






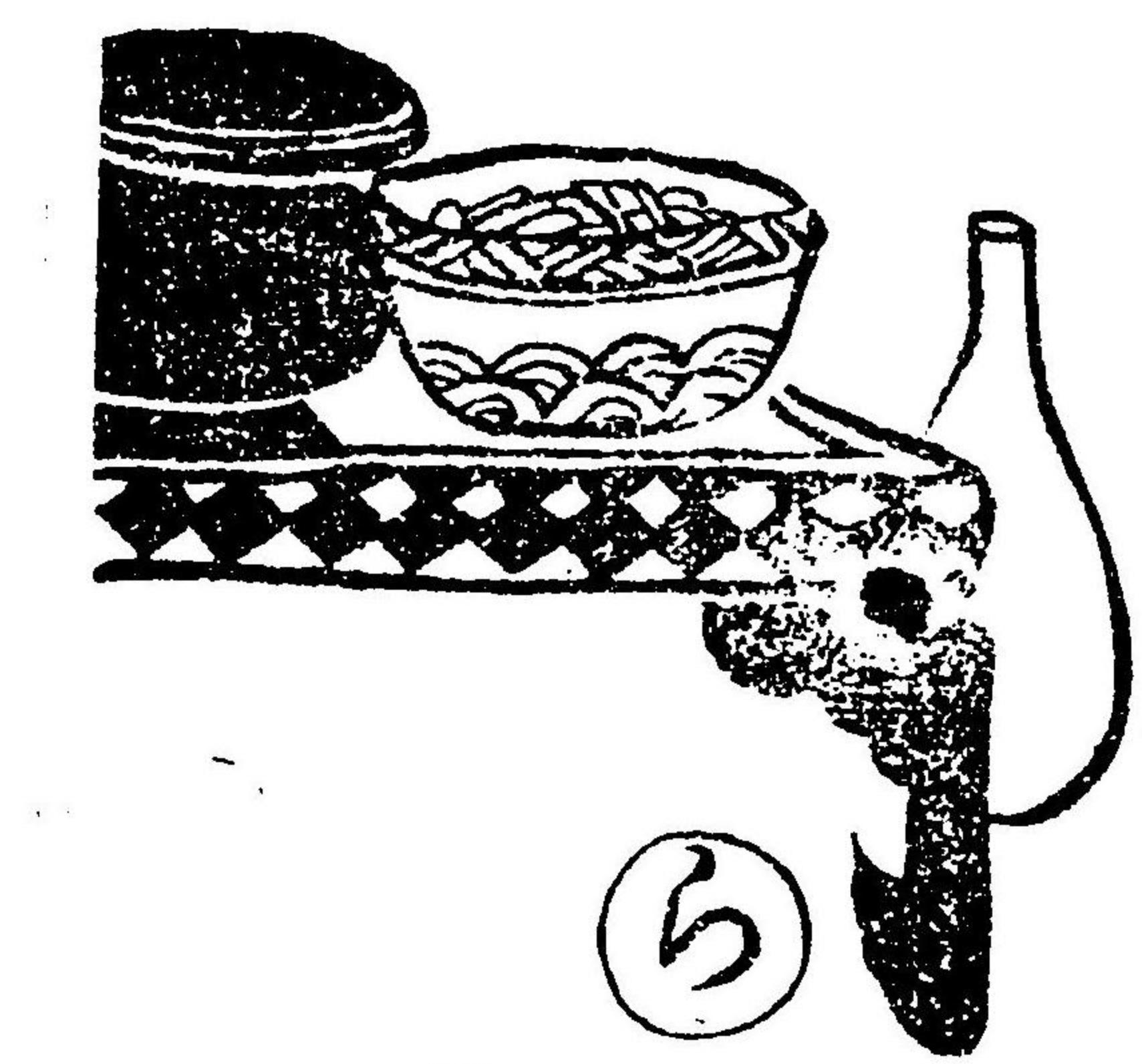
① うりはなをまわす
かざふくうゆ

② おのの
えんじゆ
くわんじゆ



③



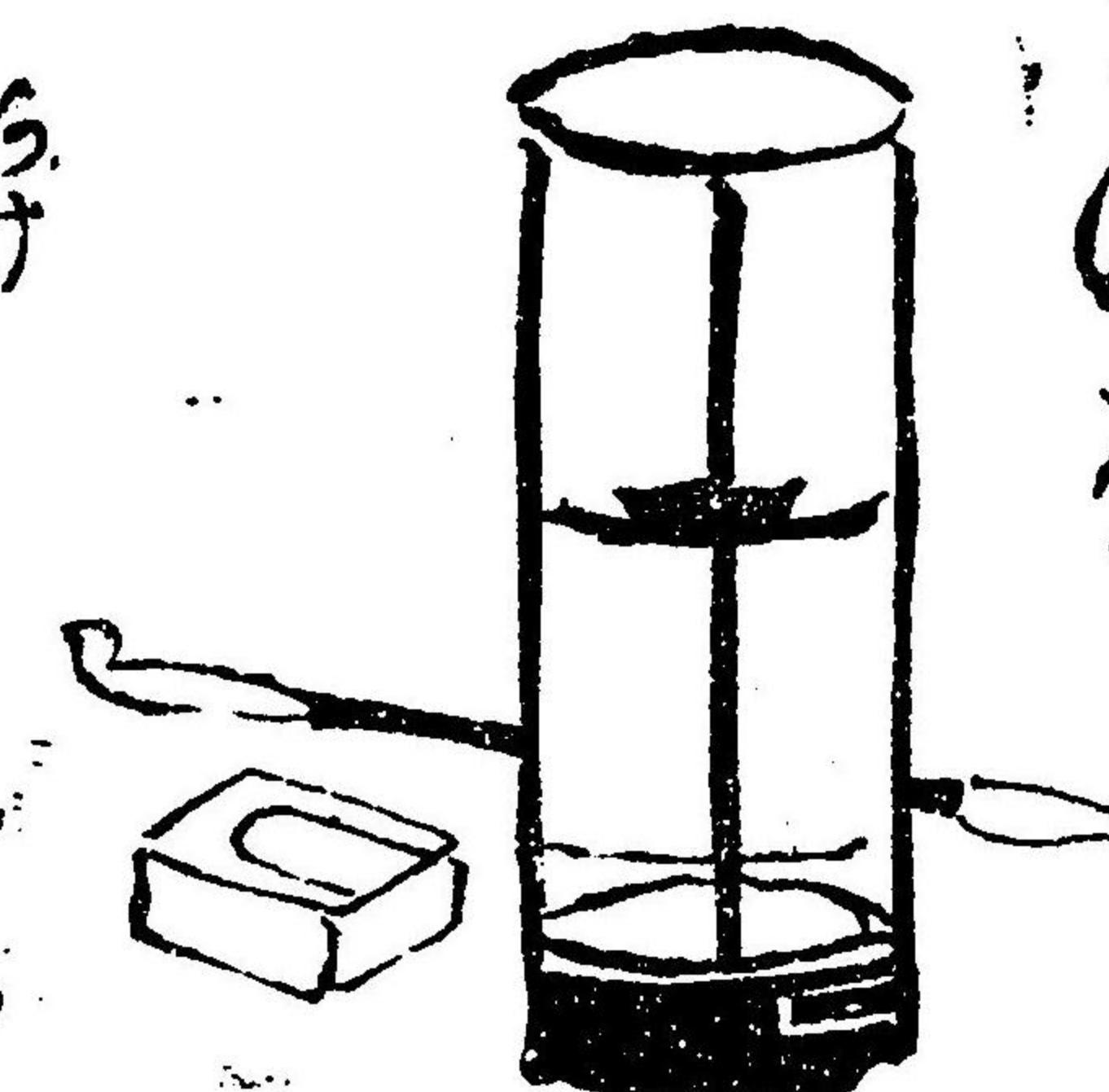


わくわくと
わくわくと
わくわくと
わくわくと



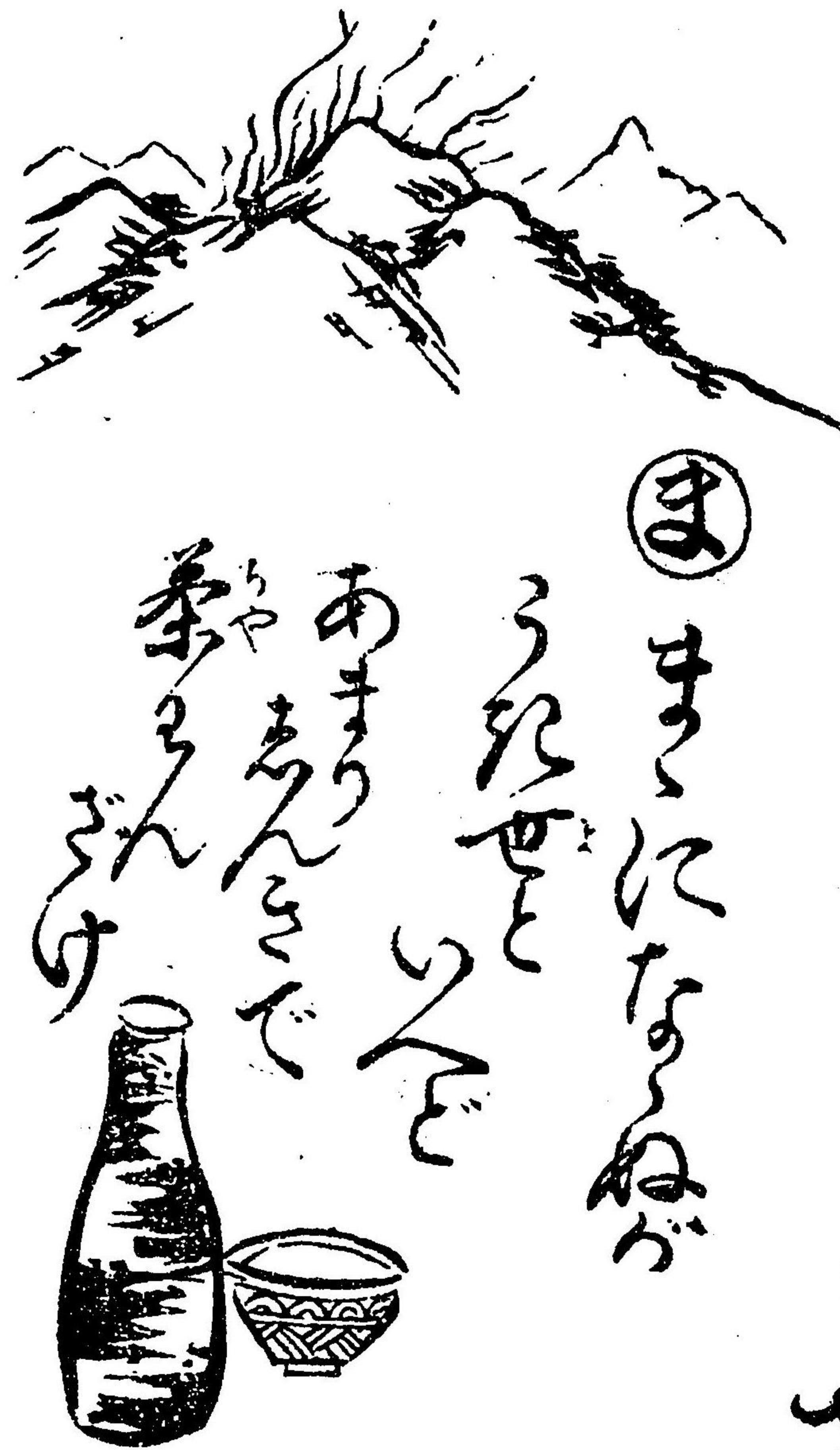
な
なのじ
れと
つるさ
わくふ
入
ゆるは
仇
まくら

わ
かよの
みの
かな

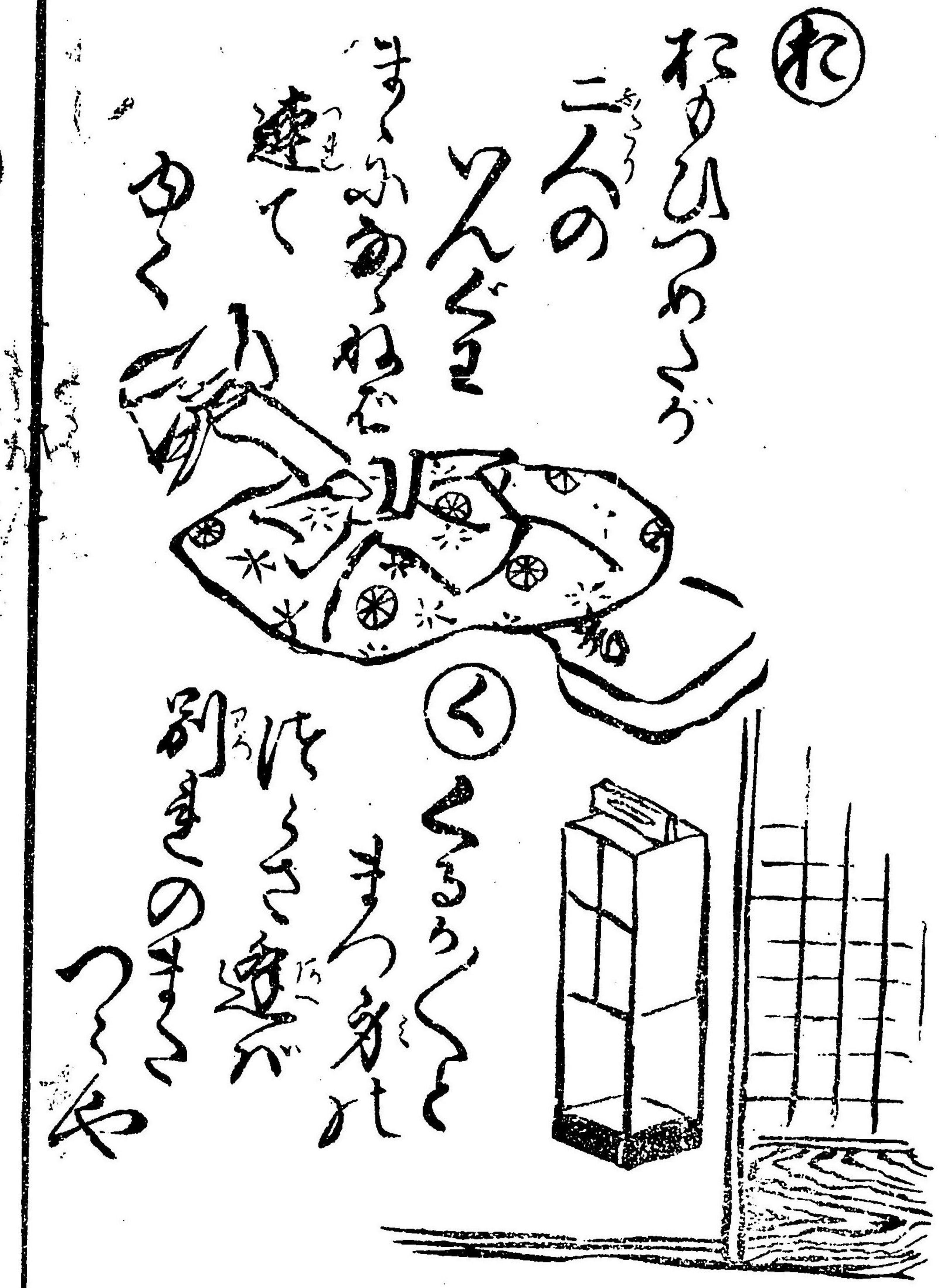


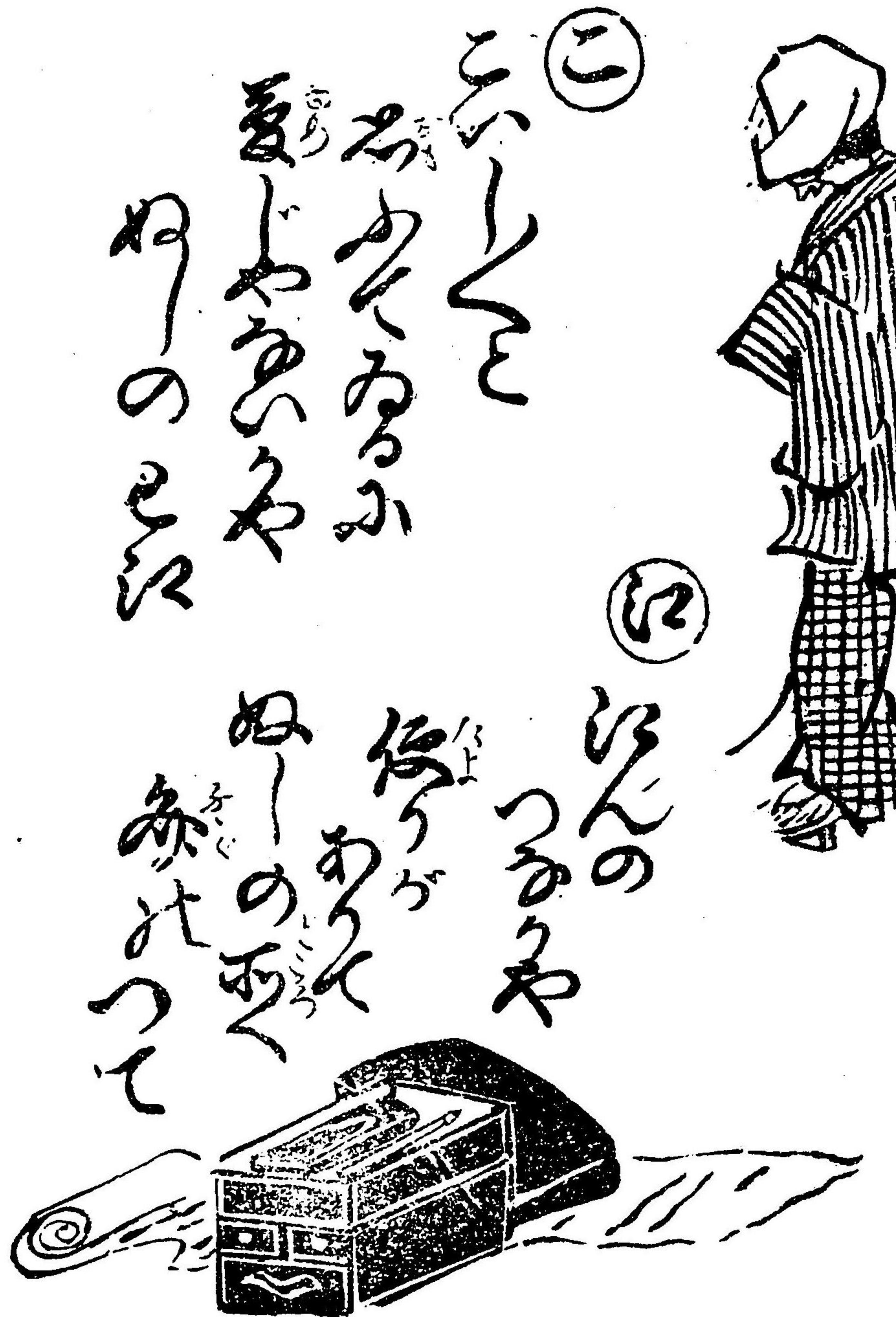
わ
わくわくと
わくわくと
わくわくと
わくわくと



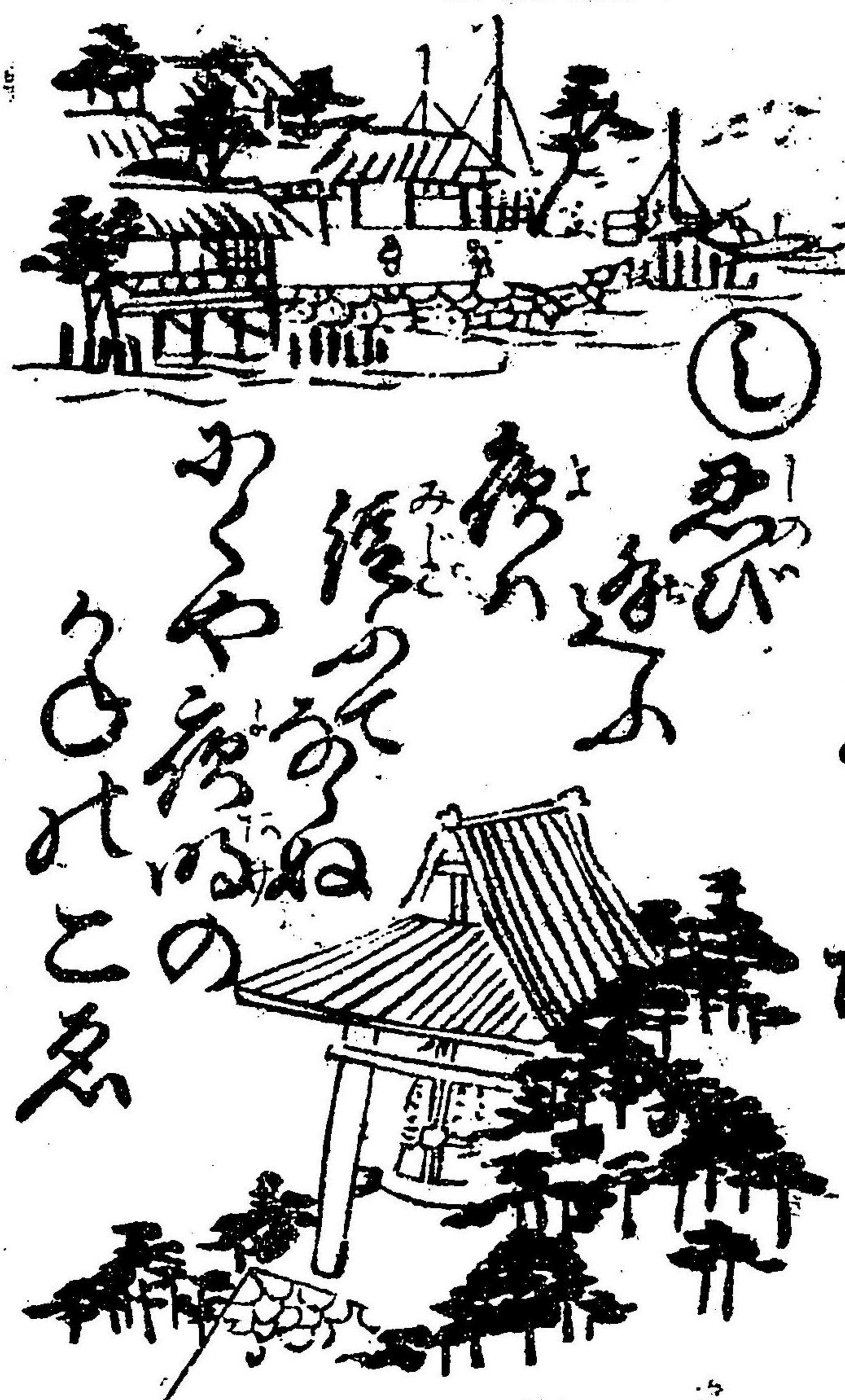


の
は
け
た
う
く
ま
る
よ





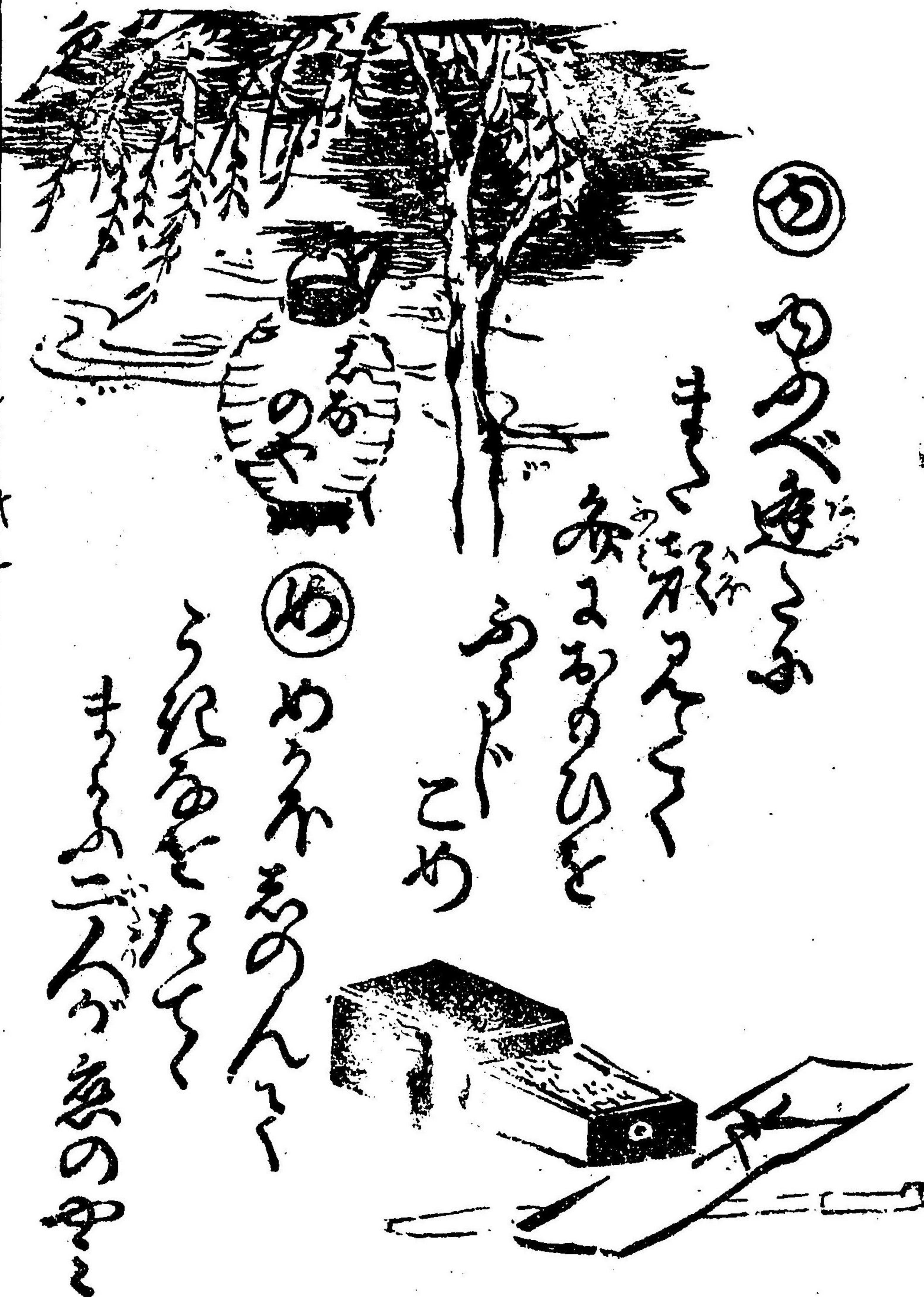




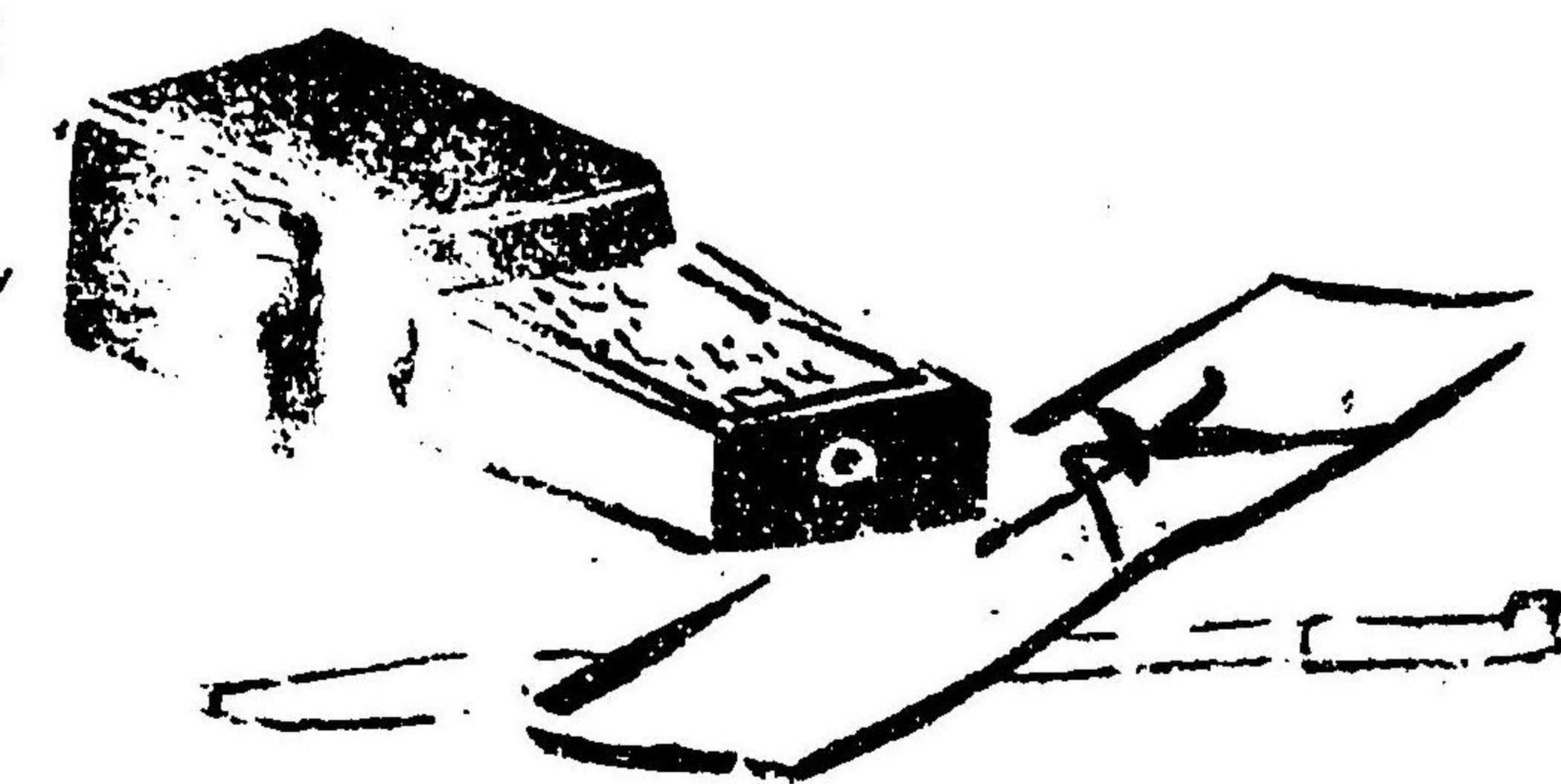
み
まつりはおひるにそよぎと
くさびるまづう
あらわ

(1)

(2)

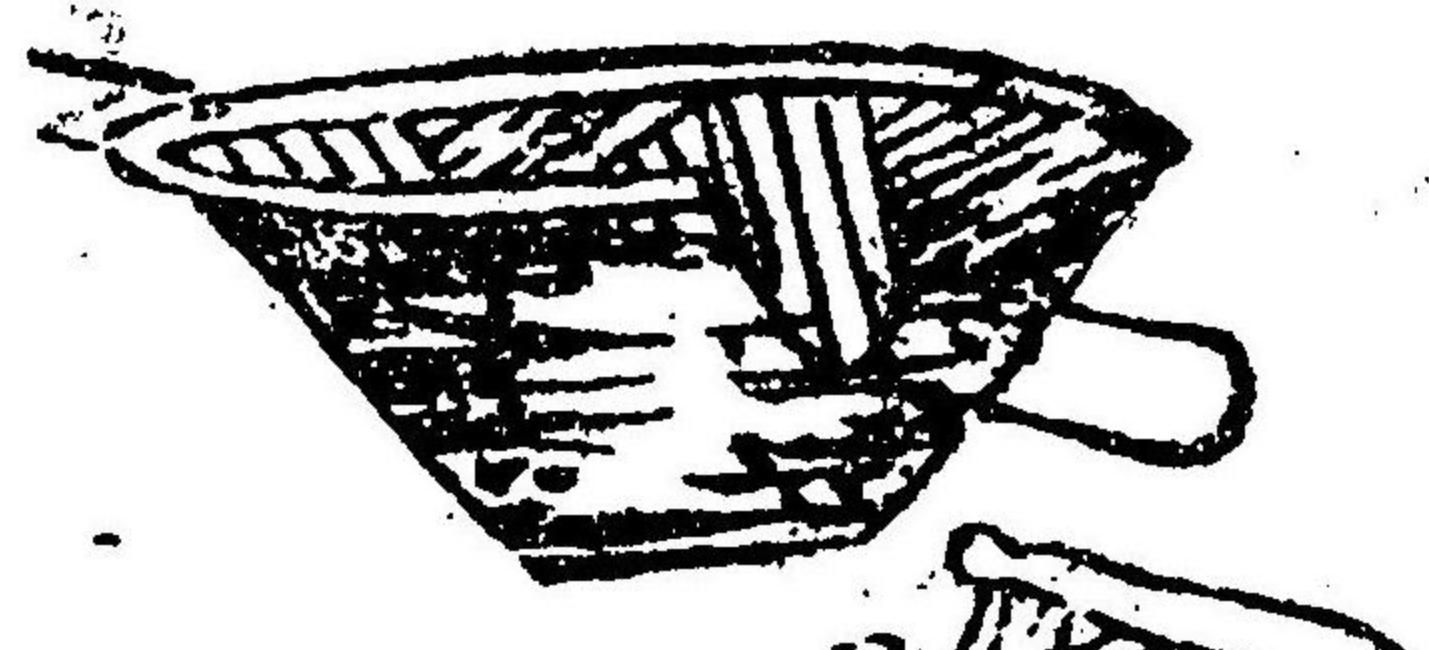


め
やうれいのん
まつりはおひるにそよぎと
くさびるまづう
あらわ



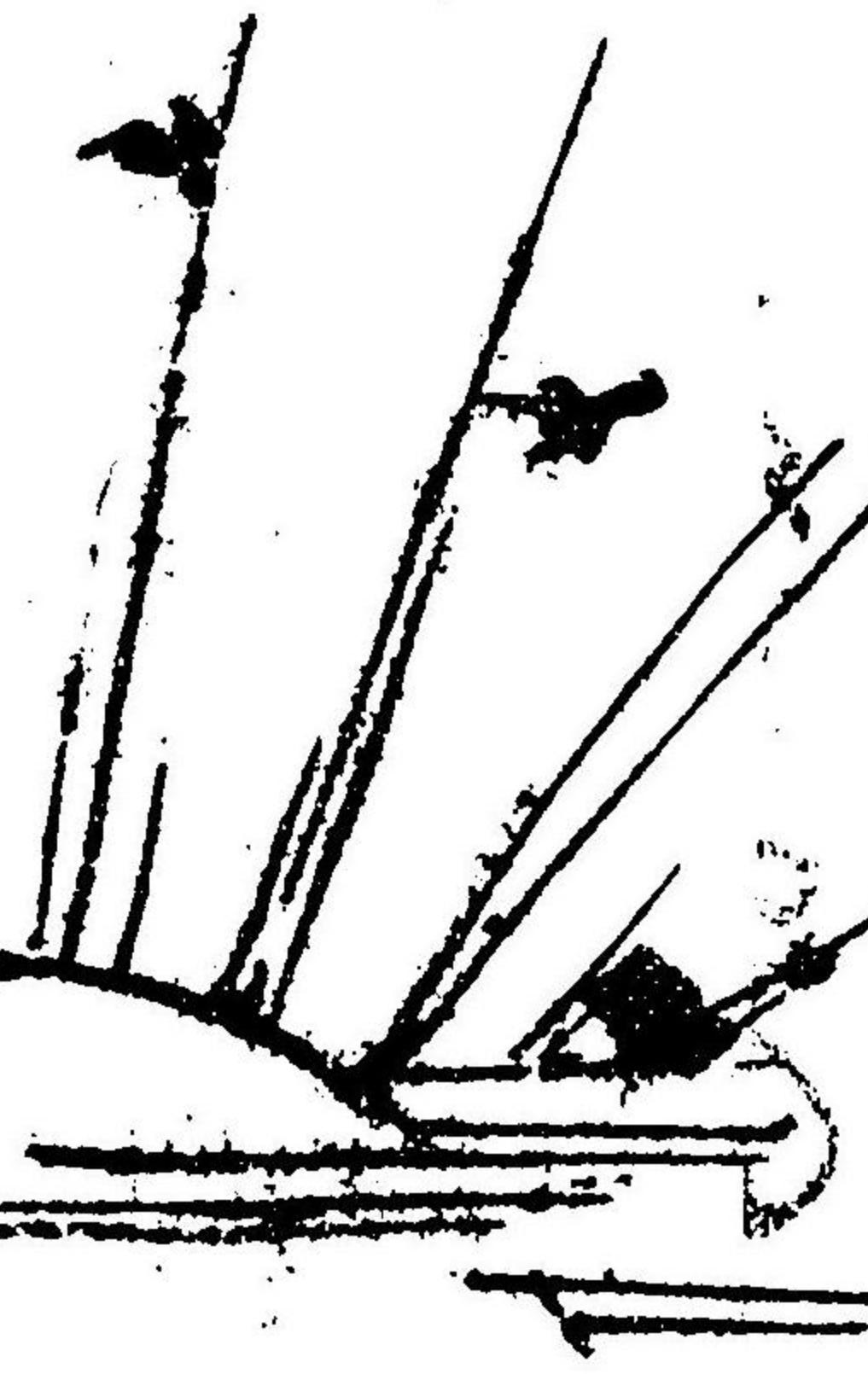
(3)

(4)

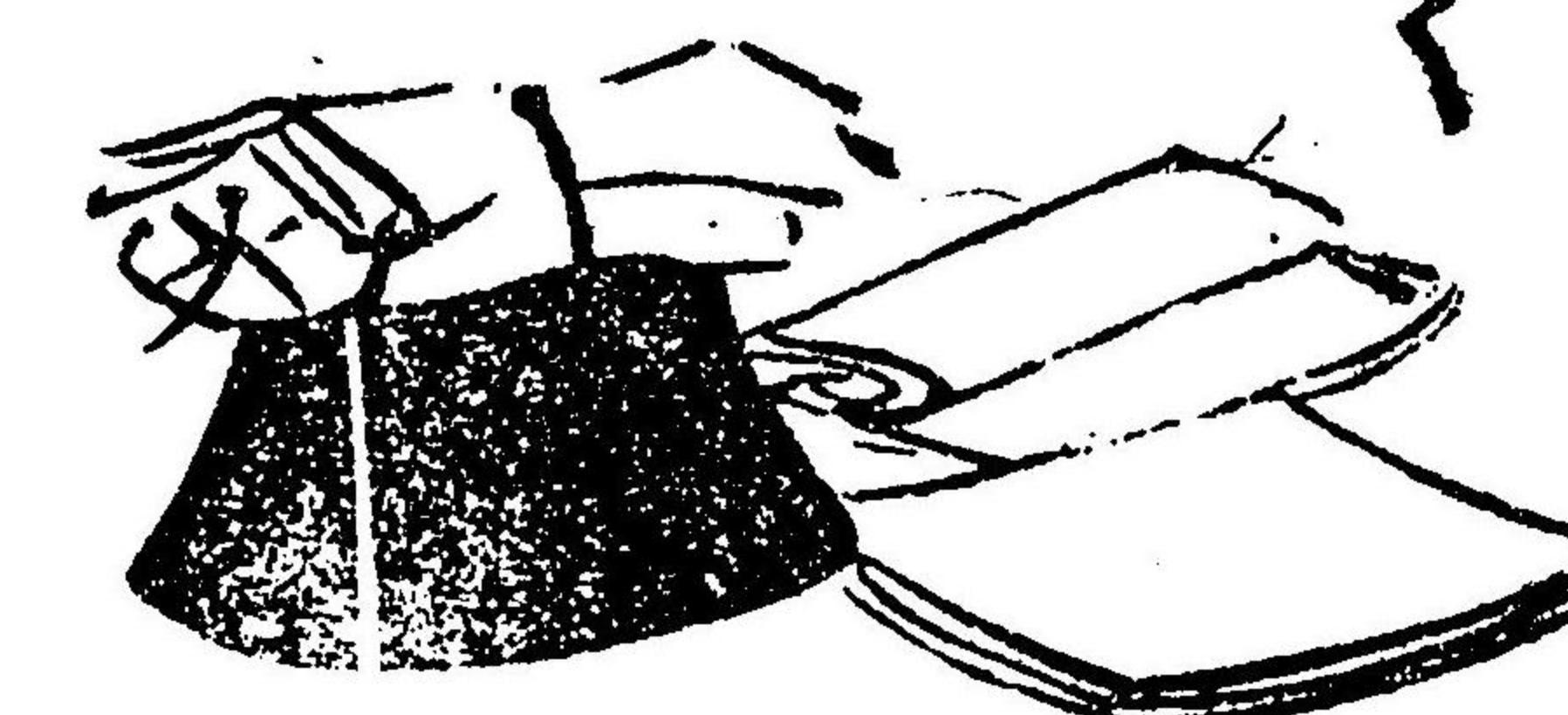


舟中食せ
りんごをたれ
こぼしき
ます

④ ももを
取立まし
すやうとくら
むりあわせた



⑤ ひるあさが
くちのひよ
今あかん月
あせの
えほも



⑥ あさの月
あさきづと
ね
わとあいだ
も



名

あさの月
あさきづと

す
未立約東
長敷茂今仁
甲斐有昨日
時



○けく用なま
まきびかまきよ
うるま

○まふえどりぬなば
めのさとひでやう
○かく二へぐありへ
あしられるとあれとあ
○わくころよ二りうあわう
ほゆかの節ありありんせ

むかし
はなた
かくし
うさぎ

おおきな
かくしの
ひじり
かくしの
ひじり

は
い
と
く
ひ
ま
る

大
海
之
北
有
山
焉
其
名
曰
岱
宗
夫
如
何
其
高
也
巍
巍
乎
若
天
子
然
云
上
接
天
下
承
地
势
甚
雄
伟
也
故
谓
之
岱
宗

あ
れ
や
う
と
く
る
か
ら
か

さうして
ちろり
が
あれ
知れ
せよ

○ やくさんふゑあうがゆひと
あらわちまへが直すんも
○ 厚ひゆうてゆせきくせき
あさかおとへゆくゆく
○ あ(べ)根ねりツイモのと
ゆ乃キヤツツギガタクムキ

○ やくさんふゑあうがゆひと
あらわちまへが直すんも
○ 厚ひゆうてゆせきくせき
あさかおとへゆくゆく
○ あ(べ)根ねりツイモのと
ゆ乃キヤツツギガタクムキ

○ ほくもんがおひるをとどけ
あはれのまゝにゆきとまう色
残るむかしのじゆくのそとで
そよがねたあくとあくら
かくまきの行ひてゆく
ゆゑとそひ傳へまわるが
通すむすめのゆく内
まつてあるゆくまくまく
たまへかねとりゆくまく
まゆひせんのゆくまく
あだなゆくゆくゆく

○余所ぞうふくじゆくひ止

○赤い風が吹く夜の月夜

○走る馬の音が聞こえてあ、先
かんでゆる車がある

○たゞも洞窟の音が聞こえ
遙かひびたる山の音

○云々の音が聞こえ
走る馬の音が聞こえ
吹く風が吹く夜の月夜

○力はこのお男しか
宝くわんとおもての身に
手あがめでてお仕事する
おとづれの心のかじと
やまゆるおとづれをすむ
○おとづれの心のかじ
あうそおうそうそうそ
○おとづれの心のかじ
ありふれあうそうそ
○男のうそおとづれの身
うそおとづれの身

○ おひるにあはる
おひるにあはる

○ おひるにあはる

○ おひるにあはる
おひるにあはる

○ おひるにあはる
止ま

○ おひるにあはる
おひるにあはる

○ おひるにあはる

日あがひの風
あくびをもむれども

水の音をうるさくと
さういふ風の音

おとづれの風
おとづれの風

十九

おとづれの風
おとづれの風
おとづれの風
おとづれの風
おとづれの風

○
之
人
之
事
中
之
事

余
何
也
不
可
以
爲
人
也

○
萬
物
之
生
也
有
以
爲
本
者
不
可
得
而
知
也

おもて
まつり
まつり
まつり
まつり
まつり
まつり
まつり

卷之三

天
地
萬
物
之
生
皆
有
體
也
萬
物
之
體
不
外
於
象
而
不
離
於
象
不
外
於
象
而
不
離
於
象

大
也
矣
也
也

○ おもてへてまくらを拂ひ合
金子やをふかせ給ひよちる
○ 猫士のとどき事は強河
ゆめ一物の出來どろ

明治十九年 編輯兼 愛知縣下平民
十一月廿四日 出版人 猫士 長三郎
名古屋八百屋
一毛丁目百三番
代價門桂江画

ナニヤルニ

